

〔報告〕 展示公開施設の館内環境調査報告

— 平成20年度 —

吉田 直人・佐野 千絵・石崎 武志

1. はじめに

保存修復科学センターでは、博物館・美術館などの文化財公開施設において、借用などの移動を伴う文化財などの展示があるときに、当該施設の館内環境調査を文化庁美術学芸課と協力して行っている。その調査については以前述べたが¹⁾、平成5年度からは各館ごとに、その規模や施工時期などについて、予め定まったフォーマットに従って整理している。平成19年度までについてはすでに報告したので^{2,3)}、ここでは平成20年度に行った館内環境調査に関して概括する。

2. 相談館全体の傾向

相談件数および相談館数については、図1のとおりである。昨年同様、博物館・美術館の新設件数は少なくなった。相談件数は554件であった。前年度は552件であったのでほぼ同数といえる。相談館の地域分布は、関東、中部、近畿地方の公開施設が多かった（図2）。

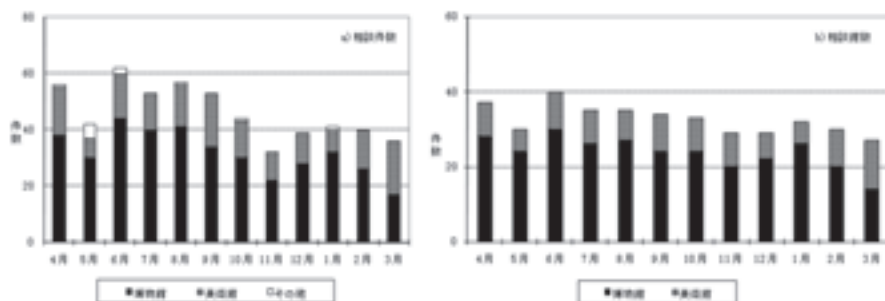


図1 保存環境に関する相談件数（平成20年度）
a) 相談件数 b) 相談館数

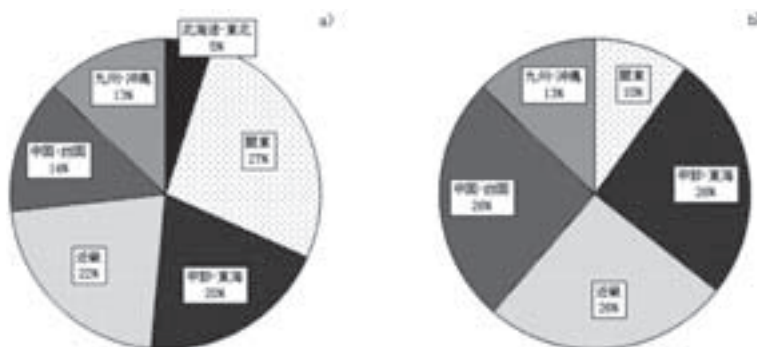


図2 相談館の地域分布（平成20年度）
a) 相談館全体の地域分布 b) 平成20年度館内環境調査報告書提出館26館の地域分布

3. 平成20年度館内環境調査報告書提出館26カ所の傾向

集計方法などは既報と同じである。相談件数およびその経時変化、相談館の地域分布、開催時期、借用計画をたてた時期、コンクリート打設完了から開館までの期間について図示する(図1~6)。また、平成20年度に報告書を書いた26館(このうち1館については、20年度中に2回報告書を、また2館には3回作成)の基礎データを表1に記す。

表1 調査館の基礎データ

着工	コンクリート打設完了	竣工	開館	借用時期	延べ床面積(m ²)	展示面積(m ²)	収蔵面積(m ²)	博・美	運営母体	
1		1995.10.	1995.11.	2008.10.12.		55.64	137.6	博	学校法人	
2		1992.12. (展示工事)	1993.05.15	2008.07.09.	2216.44	975.003	618.49	博	市	
3	2005.02.08	2007.12.20	2008.04.01	2008.09.11.	21.695	381	25+ a	博	大学共同利用機関法人	
4	2000.09.	2003.02.	2003.07.	2008.02.04.	50300	1400		美	県	
5	1979.07.17	1980.11.21	1981.07.05	2008.05.02-18	8195.28	2589.7	773.1	美	県	
6	2007.10.02 (改装)	2008.06.10	2008.08.29 (改装)	2008.09.10.	12126.76	3,763.45	2,696.53	美	県	
			2010.09. (増設収蔵庫使用開始予定), 1983.11.13							
7		2007.03.20						宗	宗	
8	2002.11.18	2003.08.29 (収蔵庫・展示室)	2004.05.31	2005.10.15	2009.01.03.-2008.07.09.	8,760	2,764	1,474	博	県
9		1988.11.02	1988.11.03	2008.10.12.			710	博	組合	
10	2001.01.	2001.10.	2003.03.	2008.07.09.	950			博	市	
11	1997.01.	1997.09.	1998.03.	2008.09.03 (改装), 1998.11.08	2939.94	887.76	174.96	博	市	
12	2000.03.30	2001.06.05	2001.10.13	2003.10.13	2008.09.09-27, 2008.10.11.	3076.09	291.38	329.24	博	学校法人
13	1996.10.	1997.06. 末	1998.03.25	1998.11.03	2008.10.11.	2,158.57 (建物全体 3,450.087m ²)	430.83	363.25	博	市
14	2001.06.15	2001.09.	2003.01.	2003.03.30	2008.09.11.	2134	412	465	博	市
15	1998.01.		1998.11.10	1999.04.03	2008.10.12.	1144.3			博	市
16	1989.08.22	1990.10.05	1991.02.28	1991.10.12	2008.11.12.-2008.04.05.	4,942.60	142.5	156	博	市
17	2004.02.10	2004.06.23	2005.01.20	2005.10.06	2008.10.11.	1316	360	360	博	町
18	2004.01.		2006.02.	2007.03.10	2009.03.05.-2008.10.11.	9,051.50	2820.67	2005.36	博	県
19	2002.10.		2004.10.	2005.03.	2008.07.09.-2008.04.05.	19,252.45	2002	711	美	県
20	本体: 1993.07.06. 展示工事: 1993.07.22	1993.11.	本体: 1994.03.22. 展示工事: 1994.07.22	1994.09.20	2009.04.08.25	401	252		博	町
21	1988.02.23	1989.03. 末	1989.09.30	1989.10.31	2008.09.11.	2997.9	519.04	450.6	博	市
22			1994.01.	1994.11.19	2008.09.11.				美	市
23	2001.12.	2003.01.	2004.02., 2002.06.	2004.10.29	2008.10.11.	4119	1108		博	市
24	1996.01.17	1997.11	1998.10.31	1999.03.06	2008.12.-2009.01.	9,785.58	2538		美	市
25	2003.03.20	2004.02.	2004.09.30	2005.04.23	2008.05.02-18	9876	2995	783	美	県
26	2007.07. (改装), 1977.01.24		2008.02.29 (改装), 1977.08.21	2008.04.01 (改装), 1977.09.10	2008.03.05.	168.96 (7,930.13本館全体)	146.7 (2,314.99本館全体)	(1,062.51本館全体)	美	県

借用時期は、開館後2年以上経過した館は全体の8割以上を占め、開館から間もない時期の借用は少なかった。(図3)。竣工から開館までの期間は、6か月以内の館が半数以上であった(図4)。開館時期については、例年は4月が多いが、平成20年度は10月、次いで3月に多かった。(図5)。コンクリートの打設完了時期から開館までの期間は短くなる傾向にあり、1年以内の館が半数以上を占めた(図6)。

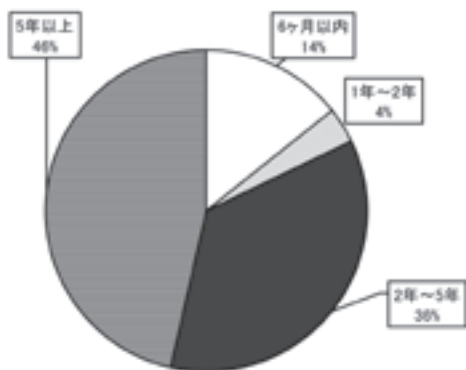


図3 開館から館内環境調査報告書を必要とする資料を借用するまでの期間

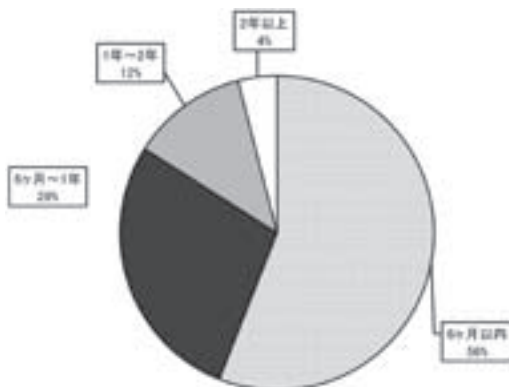


図4 竣工から開館までの期間

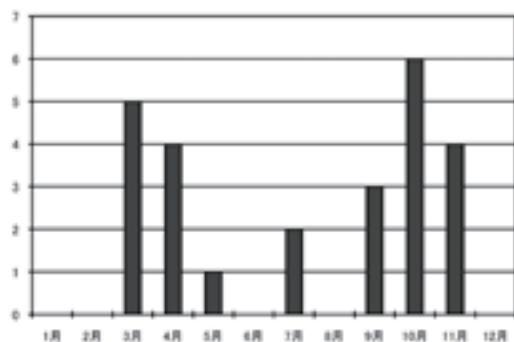


図5 平成20年度館内環境調査報告書提出館の開館月

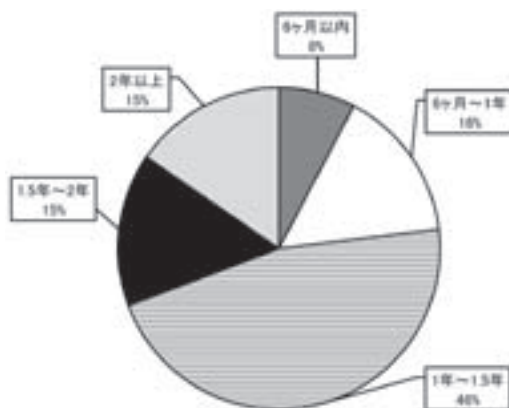


図6 コンクリート打設完了から開館までの期間

4. 考察

平成20年度は、環境調査報告書提出館のうち、開館後2年以上経過したものが多数であった。一方、開館（改装も含め）後間もない借用も少なくない。竣工から開館までの期間も短くなる傾向がある。展示室、収蔵庫内の酸、アルカリ環境は2夏を経ないと中性にならない場合が多いので、十分かつ適切に空気環境をチェックする必要がある。

5. さいごに

地球温暖化対策としての省エネ化があらゆる場面で求められており、文化財保存施設についても例外ではない。今後、温室度管理や照明といった保存管理に関わる重要な要素において、省エネ化との両立をどのように進めていくかが大きな課題である。保存修復科学センターでは、この課題に取り組み、その成果は研究会や論文、学会発表を通じて随時公表していく次第である。

謝辞 本報告の作成にあたり，データ整理を行って頂いた市川久美子氏，内藤百合子氏，猿渡香穂里氏に深く御礼申し上げます。

参考文献

- 1) 三浦定俊，佐野千絵，石川陸郎：新設博物館・美術館における保存環境調査の実際，月刊文化財（平成5年4月号），355, 34-42（1993）
- 2) 佐野千絵，三浦定俊：国指定文化財公開施設のシーズニングについて—平成5年度展示施設の館内環境調査から—，月刊文化財（平成7年9月号），384, 4-11（1995）
- 3) 保存科学 35号（1996）以降，毎号に掲載

キーワード：博物館（museum）；館内環境（indoor environmental condition）；空気環境（indoor air pollution）；温湿度（temperature and relative humidity）

Annual Report on the Inspection of Museum Environment in 2008

Naoto YOSHIDA, Chie SANO and Takeshi ISHIZAKI

The National Research Institute for Cultural Properties, Tokyo, in collaboration with the Agency for Cultural Affairs (Bunkacho) advises museums on how they should design their facilities to provide adequate environment for the exhibition of nationally designated cultural objects. This report shows some data accumulated from museums inspected in 2008.

The number of advice given was 554 in 2008. Results of inspection were reported to 26 museums in 2008 for their exhibition.